

後藤 斉 教授 年譜・業績一覧

雑誌名	東北大学言語学論集
号	29
ページ	i-vii
発行年	2021-03-19
URL	http://hdl.handle.net/10097/00133081



後藤 斉教授

後藤 斉 教授 年譜・業績一覧

本 籍 地： 宮城

生年月日： 1955（昭和30）年10月3日

【略歴】

1978年3月 東北大学文学部言語学専攻卒業
1978年4月 東北大学大学院文学研究科博士前期課程英文学英語学言語学専攻入学
1980年3月 同 修了
1980年4月 東北大学大学院文学研究科博士後期課程英文学英語学言語学専攻進学
1983年3月 同 単位取得退学
1983年4月 東北大学文学部助手
1987年3月 同 退職
1987年4月 山形県立米沢女子短期大学講師
1991年3月 同 退職
1991年4月 東北大学文学部助教授
2000年4月 東北大学大学院文学研究科に配置換
2004年4月 同 教授
2021年3月 同 定年により退職

1999年9月～2000年6月 文部省在外研究 ロンドン大学滞在
2012年10月～2016年9月 人間文化研究機構国立国語研究所 外部評価委員
2015年5月～2019年5月 日本ロマンス語学会副会長
2019年5月～ 日本ロマンス語学会会長

【著書・編著書】

1. 『エスペラント常用 6000 語』 大学書林, 1993.
2. 『知っておきたいエスペラント動詞 100』 日本エスペラント学会, 1995. [共編]
3. 『エスペラント日本語辞典』 日本エスペラント学会, 2006. [編集副主幹]

4. 『エスペラントを育てた人々』 創栄出版, 2008.
5. 『日本エスペラント運動人名事典』 ひつじ書房, 2013. [柴田巖と共編]
6. 『人物でたどるエスペラント文化史』 日本エスペラント協会, 2015.
7. 『単語力から総合的な語学力へ ― エスペラント応用語集論―』 日本エスペラント協会, 2015.
8. "Esperantistaj voĉoj el la katastrofo 2011" 日本エスペラント協会, 2015.
9. "En La Mondon Venis Nova Lingvo. Festlibro Por La 75-Jariĝo de Ulrich Lins" MONDIAL, 2018. [José Antonio Vergara, Kimura Goro-Christoph と共編]

【論文】

1. 「古プロヴァンス語の複合時制」 『ロマンス語研究』 第 13-14 号(1981), pp.27-37.
2. 「言語学史の中の国際語論」 『月刊言語』 第 12 卷(1983)10 月号, pp.65-69.
3. 'Remarques sur la construction relative de l'ancien occitan' 『文化』 第 47 卷(1983), 1-2 号, pp.1-11.
4. 'Neutral Case Marking and Free Word Order in Latin "Accusative with Infinitive"' 『文化』 第 48 卷(1985), 3-4 号, pp.1-15.
5. 「言語学と国際語論」 『社会言語学シンポジウム ―言語的多様性の中の国際語を考える― 講演録』 (1987), pp.54-57.
6. 'Functional Load of Declension in Medieval Occitan' 『山形県立米沢女子短期大学紀要』 第 22 号(1987), pp.87-95.
7. 'Topic-Prominence in Medieval Occitan' 『山形県立米沢女子短期大学紀要』 第 24 号(1989), pp.89-95.
8. 「中世オック語の主語転換現象について」 『ロマンス語研究』 第 23 号(1990), pp.33-38.
9. 「『神話』の比喩的用法について ―コーパス言語学からのアプローチ―」 『東北大学言語学論集』 第 2 号(1993), pp.1-16.
10. 「ヨーロッパ中世文法学における独創性 ―Razos de Trobar と Donatz Proensals―」 『東北大学文学部研究年報』 第 42 号(1993), pp.155-178.
11. 「言語研究のデータとしてのコーパスの概念について ―日本語のコーパス言語学のために―」 『東北大学言語学論集』 第 4 号(1995), pp.71-87.
12. 「コーパスとしての新聞記事テキストデータ ―終助詞「かしら」をめぐる―」 『日本言語学会第 111 回大会予稿集』 (1995), pp.43-46.

13. 「コーパスとしての新聞記事テキストデータ ―終助詞「かしら」をめぐる―」 『東北大学言語学論集』第5号(1996), pp.37-46.
14. 「コーパスの類型論」 『言語処理学会第3回年次大会発表論文集』(1997), pp.221-224.
15. 「コーパスの類型論」 『東北大学言語学論集』第6号(1997), pp.27-33.
16. 「人文学研究とインターネット」 『人文学と情報処理』第15号(1997), pp.9-14. (岡本真『これからホームページをつくる研究者のために』(築地書館, 2006)に再録)
17. 「最適なコーパスの代用としてのテキストデータ」 平野日出征・中村捷編『言語の内在と外在』(1998), pp.189-203.
18. 「日本語コーパス言語学と語の文体レベルに関する予備的考察」 『東北大学文学研究科研究年報』50(2001), pp.201-214.
19. 「インターネットと言語 ―英語公用語化論との関連において」 『宮城教育大学情報処理センター年報』第8号(2001), pp.41-45.
20. 「慣用句と自由な語結合の間 ―「博する」を例にして―」 『東北大学言語学論集』第11号(2002), pp.1-8.
21. 「言語理論と言語資料 ―コーパスとコーパス以外のデータ」 『日本語学』第22巻(2003)4月臨時増刊号「コーパス言語学」, pp. 6-15.
22. 「コーパスを活用した日本語の研究」 『韓国語日文学会 2006 年度夏季国際学術大会 ―発表論文要旨集―』(2006), pp.170-173.
23. 「文文化―ロマンス言語学と一般言語学」 『ロマンス語研究』第39号(2006), pp.1-9.
24. 「コーパス言語学と日本語研究」 『日本語科学』第22号(2007), pp.47-58.
25. 'La Esperanta leksikografio, precipe rilate al la Esperanto-Japana Vortaro' Ulrich Lins(red.). "Aziaj kontribuoj al esperantologio" (2008), pp.7-11.
26. 「少数言語におけるコーパス利用に関する一考察」 『科学研究費ロシアおよびその周辺の少数言語のコーパスの構築と記述的・歴史的研究 研究成果報告書』(2009), pp.47-58. (科学研究費補助金 基盤研究 (A) #18202010)
27. 「言語学のなかの計画言語論」 木村護郎クリストフ・渡辺克義編『媒介言語論を学ぶ人のために』(世界思想社, 2009), pp.254-274.
28. 「日本近代史のなかのエスペラント」 『第100回記念日本エスペラント大会記念公開講演会(2013 年)報告書 日本にとってのエスペラント―歴史から学ぶ未来への展望』(日本エスペラント協会, 2014), pp.4-20.
29. 「西洋人日本語研究に関する吉野作造の論考」 『東北大学言語学論集』24号(2016), pp.1-14.
30. 「国際語エスペラント ―言語共同体の特性から―」 『日本語学』2018 年 5 月特大号,

pp.158-169.

31. 「エスペラントづいた柳田國男」 鈴木岩弓・小林隆編『柳田國男と東北大学』, 東北大学出版会, 2018. pp.177-206.
32. 'Enkonduke: Pri D-ro Ulrich Lins, kun speciala atento al lia ligo kun Japanio en fruaj jaroj' Gotoo Hitosi, José António Vergara kaj Kimura Goro-Christoph (red.), "En La Mondon Venis Nova Lingvo. Festlibro Por La 75-Jariĝo de Ulrich Lins" (MONDIAL, 2018), pp.1-14.
33. 「洋学者としての大槻文彦」 東北大学大学院文学研究科講演・出版企画委員会編『ハイブリッドな文化』(東北大学出版会, 2019. pp.75-119.

【翻訳書】

1. R.H.ロウビンズ『言語学史 第三版』研究社出版, 1992. [中村完と共訳].

【分担執筆】

1. 「ノビアル語」『日本大百科全書』第18巻, 小学館, 1987, p.440.
2. 「historical change」荒木一雄・安井稔編『現代英文法辞典』, 三省堂, 1992, pp.663-664.
3. 「情報検索を楽しもう」、「言語分析の方法」中村捷編『人文科学ハンドブック』, 東北大学出版会, 2005. pp.53-60, 124-126.
4. 「言語学史」、「フランス語」飛田良文他編『日本語学研究事典』, 明治書院, 2007. pp.4-6, 83-84.
5. 「言語学のための文献解題」野間秀樹編『韓国語教育論講座 第4巻』, くろしお出版, 2008. pp.607-625.
6. 「"あいうえお"の言語学」阿子島香(編)『ことばの世界とその魅力 人文社会科学講演シリーズ III』, 東北大学出版会, 2008. pp.3-49.
7. 「エスペラント」樺山紘一編『歴史学事典 15 コミュニケーション』, 弘文堂, 2008. pp.83-85.
8. 「エスペラント語」石井米雄編『世界のことば・辞書の辞典 ヨーロッパ編』, 三省堂, 2008. pp.433-444.
9. 「『張赫宙日本語作品選』『朝鮮時論』」野間秀樹編『韓国・朝鮮の知を読む』, クオン, 2014. pp.360-362.
10. 「エスペラント語」「コーパス」など15項目 佐藤武義・前田富祺他編『日本語大事典』, 朝倉書店, 2014.

11. 「第 12 章 コーパス」小泉政利編著『ここから始める言語学プラス統計分析』, 共立出版, 2016. pp.195-208.

【訳詞】

1. エスペラント訳「青葉城恋唄」(星間船一作詞、さとう宗幸作曲). 『エスペラントで歌う日本の歌 第 3 巻 Kokoso』 (Beltono, 2006) pp.30-31 所収.
2. エスペラント訳「花は咲く」(岩井俊二作詞、菅野よう子作曲). 『第 102 回日本エスペラント大会 大会案内書』(第 102 回日本エスペラント大会実行委員会, 2015), pp.22-23. 『エスペラント』誌(2016.3), pp.22-23.

【その他】

1. 「言語空間 エスペラントは印欧語でない」 『月刊言語』 第 9 巻(1980)4 月号, pp.121-122.
2. 'RECENZO: Waringhien, 1887 kaj la sekvo ...' 『エスペラント』第 49 巻(1981)4 月号, pp.17-18.
3. 'Aperis kulture grava verko: Recenzo de La instruoj de Budho.' Esperanto, N-ro 930 (1983) jun., pp.113-114.
4. 'Kunlogado prosperas' Esperanto, N-ro 958 (1985) okt., p.165.
5. 「書評 Akademianoj, "Centjara Esperanto"」 『エスペラント』第 55 巻(1987)7 月号, pp.34-35.
6. 「エスペラントとヨーロッパ諸語の類似について」 『エスペラント』第 55 巻(1987)9 月号, pp.7-8.
7. 「大会の講演を聞いて」 『エスペラント』第 55 巻(1987)10 月号, pp.15-16.
8. 'Fenomeno Masamune' 『エスペラント』第 55 巻(1987)10 月号, pp.26-27.
9. 'Biblioteko INOUE Hisasi' 『エスペラント』第 56 巻(1988)1 月号, p.15.
10. 「書評 原聖『虐げられた言語の復権』」 『エスペラント』第 56 巻(1988)4 月号, pp.34-36.
11. 「バランギャンを悼む」 『La Movado』 第 493 号(1992)3 月号, pp.1-2.
12. 「言語圏 α ボウルトン著『エスペラントの創始者 ザメンホフ』」 『月刊言語』第 23 巻(1994)6 月号, p.137.
13. 'Tendenca Internacieco: Recenzo de A. Albault, Vojaĝo tra la Landoj.' Esperanto, N-ro 1056 (1994) feb., p.33.
14. 'Kiel familialigi vortojn? (Provo en Japanio).' La 17-a Esperantologia Konferenco, Seulo, 1994.
15. 'Esperantologii aziece: Esperantologia Konferenco en la UK' Esperanto, N-ro 1063 (1994) okt., p.165.
16. 「言語にとって運動とは?」 『エスペラント』第 64 巻(1996)7 月号, pp.5-6.

17. 「書評 渡辺克義『ザメンホフとエスペラント』」 『エスペラント』第 65 巻(1997)3 月号, pp.30-31.
18. 「Dr. McEnery 氏来日」 『英語コーパス研究会 Newsletter』第 16 号(1997).
19. 「『ブラハ宣言』への視点」 『エスペラント』第 65 巻(1997)6 月号, pp.12-13.
20. 「学内 WWW あんなページこんなページ 第 3 回: 国内人文系研究機関/言語学関連研究機関 WWW ページリスト」 『SuperTAINS ニュース』第 13 号(1997), pp.6-9.
21. 「インターネット言語学情報 第 2 回 人文科学全般」 『月刊言語』第 27 巻(1998)2 月号, pp.98-99.
22. 「人文学的なインターネットの利用法」 第 29 回フランス語談話会(1998 年 3 月 14 日, 慶應義塾大学)口頭発表.
23. 「インターネット言語学情報 第 5 回 言語の多様性と言語権」 『月刊言語』第 27 巻(1998)5 月号, pp.100-101.
24. 「インターネットで便利アクセス 人文系学術情報の公開」 『まなびの杜』第 3 号(1998), p.2. (『まなびの杜』編集委員会編『まなびの杜 <東北大学> 知的探検のすすめ』(東北大学出版会, 2002) pp.50-51 に再録)
25. 「インターネット言語学情報 第 8 回 音声学」 『月刊言語』第 27 巻(1998)8 月号, pp.102-103.
26. 「インターネット言語学情報 第 11 回 古典テキスト」 『月刊言語』第 27 巻(1998)11 月号, pp.112-113.
27. 「『世界言語権宣言』とは」 『エスペラント』第 67 巻(1999)1 月号, pp.6-7.
28. 「インターネット言語学情報 第 14 回 日本語方言学」 『月刊言語』第 28 巻(1999)2 月号, pp.74-75.
29. 「インターネット言語学情報 第 17 回 オンライン辞書・語彙検索」 『月刊言語』第 28 巻(1999)5 月号, pp.88-89.
30. 「インターネット言語学情報 第 20 回 人文科学全般(2)」 『月刊言語』第 28 巻(1999)8 月号, pp.106-107.
31. 「インターネット言語学情報 第 23 回 ソフトウェア」 『月刊言語』第 28 巻(1999)11 月号, pp.86-87.
32. 「現代のことばの道 —インターネットの多元的傾向と一元的傾向」 『月刊言語』第 29 巻(2000)6 月号, pp.66-69.
33. 「人間の言語の本質は音声言語」 『エスペラント』第 68 巻(2000)8 月号, pp.2-4.
34. 「ザメンホフ」 『月刊言語』第 30 巻(2001)2 月別冊号, pp.16-17.
35. 「コーパス言語学と自然言語処理」 『言語処理学会第 7 回年次大会発表論文集』言語処理学

- 会(2001), p.10.
36. 「学習者の友ー辞書・学習書・学習サイト情報 古典ギリシア語・ラテン語」 『月刊言語』第30巻(2001)5月号, p.78, p.96
 37. 「言語圏α 西垣通、ジョナサン・ルイス著『インターネットで日本語はどうなるか』」 『月刊言語』第30巻(2001)8月号, pp.122-123.
 38. 「ウェブ辞書の位置付け ーその長所と短所」 『月刊言語』第32巻(2003)5月号, pp. 61-65 掲載
 39. 「言語学 オン ザ WEB 第1回 e 博言学」 『月刊言語』第33巻(2004)1月号, pp.90-91.
 40. 「学校に緑の風を 東京外国語大学」 『エスペラント』第72巻(2004)1月号, pp.23.
 41. 「言語学 オン ザ WEB 第7回 テキスト・ツール」 『月刊言語』第33巻(2004)7月号, pp.76-77.
 42. 'La Vortaro' 『エスペラント』第74巻(2006)6月号, pp.24-25.
 43. 「待望の『エスペラント日本語辞典』刊行!」 『エスペラント』第74巻(2006)8月号, pp.12-13.
 44. 「『エスペラント日本語辞典』の編集方針」 『La Movado』第668号(2006)10月号, p. 11.
 45. 'La okcitana lingvo' 『エスペラント』第74巻(2006)10月号, pp.22-23.
 46. 「シンポジウム報告 文学・言語テキストのコーパス分析ーフランス語・英語・日本語 ーコンピュータによる言語とテキストの分析 COM の有用性の例証」 『フランス語学研究』第41号, pp.90-93.
 47. 「寄付金つき切手の生みの親 土井英一」 『考えるということ』第3号(2008), pp.29-33.
 48. 'Pseŭdo-zamenhofaj ekzemploj en PIV: Testamente de S-ro Nomura' 『エスペラント』第77巻(2009)1月号, p.10.
 49. 'Instruado de Esperanto en Tokia Universitato pri Fremdaj Studoj' 『エスペラント』第77巻(2009)5月号, p.20.
 50. 'Review: Detlev Blanke and Ulrich Lins (eds.). La arto labori kune: Festlibro por Humphrey Tonkin' Language Problems and Language Planning, 36(1), (2012), pp.95-97.
 51. 「千種眞一教授の業績と学風」 『文化』79巻3-4号(2016), pp.189-194.
 52. 「小坂涓二が遺したもの」 日本エスペラント協会 JEI100 年史編集委員会編『日本エスペラント協会(JEI)100 年史 ー日本エスペラント学会から協会へー』(日本エスペラント協会, 2020), pp.100-102.
 53. 「釜石線エスペラント愛称のなぞ」 『エスペラントの世界』第46巻3号(2020.7-9), pp.4-5.